

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年 3月28日

事業所名

きらめき北谷

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	活動内容や個々の特性に合わせてスペースを利用するよう心がけている。	個別訓練用に個室が欲しいが現状難しい。衝立を使うなど一部屋をわけの工夫などを行っていききたい。
	2	職員の配置数は適切である	0	7	児童の人数を調整している。	スタッフの休みが重なったりすると日によって手薄になる日がある。人手不足を感じる日がある。チームで安全面の確認を十分に行う。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	5	室内に段差や階段はあるが、こども達がそこに身体を合わせて行く事をあえて促している。	トイレが大人用である。踏み台や補助便座で対応している。シャワー室がなく不便を感じることもある。子どもたちにとってよりよい環境を整えたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	日々の清掃とこども達が過ごしやすい環境設定を心がけている	今後も継続して清潔な環境の維持に努めていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2	業務の合間で会議をするようにしている。	会議を実施できている時と出ていない時がある。会議の時間の確保に努めたい。目標設定や振り返りはチームで行っている。継続したい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	LINE等のツールを活用して連絡をとっている。	保護者のニーズや困り感を迅速かつ丁寧に汲み取り、改善できるよう関係性の構築に務める。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	ブログを最低一ヶ月に一回は上げている。	自己評価の結果を踏まえた改善策を皆で考え、実施。HPIにて公開を継続します。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5	業務改善の振り返りを年度末に行なっている。	第三者による外部評価は現状できていないが当事業所の意見を聴くなどして対応していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	研修があるという情報を共有している。	外部研修に加え、事業所内研修も継続していきたいと思います。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	1	アセスメントシートを作成、定期的にニーズを確認している。	取り組み始めているが、まだ主観的な分析が多い状態。アセスメントの取り方、時期、実施回数が適切か保護者の意見を確認しながら改善していきたい。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	6	事業所独自のアセスメントツールになっている。	標準化されたアセスメントツールではないものの、こどもたちの様子を細かくとらえられるようなアセスメントシートを作成、使用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	4	支援に必要な項目を選択している。	児童発達支援ガイドラインの職員全員での共通理解に努め、具体的な支援内容に設定していけるよう取り組んでいきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	担当を決めて担当者が支援を行なう様にしている。	継続して計画支援に沿った支援ができるよう努めます。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	支援員同士で相談し合っている。	継続してチームでさまざまな活動プログラムを立案、提供できるよう情報収集、学びを深めていきたいと思います。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	飽きない様にいくつかの選択肢を出すようにしている。	こどもたちの好きな遊びから活動プログラムを展開させています。運動が好きな子は運動プログラムが多かったり、手先を使った静かなあそびが好きな子は手拍あそびが多くなることもあります。偏らないよう、そこから展開を考えてみたり、興味や関心をひきつけられるような環境設定にしてみなどの工夫をしています。継続してこどもたちが楽しく参加できるプログラムの提供に努めます。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	1	担当を決めて個々を見られるように工夫している。	マンツーマン対応ができるよう担当制を設けているが、同じ時間を利用することも達同士で挑戦できるプログラムを提供するなどの工夫を行なっている。継続したい。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	児童が来所する前に話し合う様になっている。	朝のミーティング時や受け入れ前に担当スタッフ同士で打ち合わせすることで個々の遊びの保障と子ども同士の関わりの保障をバランスよく提供できるよう工夫している。継続したい。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	毎日振り返りを行なっている。	終礼時の情報共有は継続したい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	毎日記録を付けている。	日々の記録を振り返ることで支援内容の検証に繋がるよう継続したい。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	客観的評価が出来るようにしている。	関係機関の様子も参考に継続したい。
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	児発管・担当者が参加している。	児童発達管理責任者が参加、または日々の様子を詳細に把握している担当者が参加することもあります。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	5	適宜連携できる時間体制を整えている。	関係機関との連携をより増やしたい。連携が取れるような関係性の築きに努めている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	5	対象児がいない。	今後対象児が利用を希望してくることも予想して必要な準備、知識、情報を集めておきたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	6	対象児がいない。	今後対象児が利用を希望してくることも予想して必要な準備、知識、情報を集めておきたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	求められたときに行う。	積極的には実施出来ていない。こどもたちの為に必要な支援を円滑に行えるよう、関係機関との良好な関係を築けるよう務める。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	3	求められたときに行う。	積極的には実施出来ていない。こどもたちの為に必要な支援を円滑に行えるよう、関係機関との良好な関係を築けるよう務める。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5	連携には至っていないが研修を受けている。	研修の機会を通して関係機関との連携が円滑にできる関係性を築けるよう努力したい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	5	年に一回程度。	近隣の保育園等との交流ができないか検討中です。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	1	代表者が参加している。	継続して参加し全スタッフへ情報共有伝達を図ります。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	LINE等のツールを活用して支援の様子等を送っている。	保護者の送迎時にも共通理解を図っており今後も継続したい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	1	個別で子どもとの関わり方を伝えるようにしています。	今後も地域の保護者向けセミナーなどの情報を周知していきます。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	2	契約時に書面を通してご説明しています。	利用者負担額などについては明細書と領収書を発行しており、質問があったときお答えしていますが、どのスタッフからも説明ができるよう、努めていきたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	個別支援計画書で説明をして同意を得ている。	特性に応じた課題を計画書で説明し同意を得ながら継続したい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	送迎の時等にお話を聞いたりLINE等の活用をしている。	適時、保護者からの相談に適切に応えられ様に努めています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	3	保護者会の企画、実施を行っている。	継続して機会を増やし職員へも周知していきます。父母会の開催を検討中。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	相談等があった場合すぐに周知し対応に当たっている。	継続して対応力向上に努めています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	月一でブログを更新している。	ブログやLINE、Googleフォームなどを活用している。保護者が情報をキャッチしやすい方法を検討していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	書庫のカギを閉める等の対応をしている。	継続してPCやSNSでも個人情報の取扱いに注意していく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	送迎の時等に情報の伝達をしたりLINE等の活用をしている。	相手にこちらの意図が容易に伝わっているか、またどのような伝え方が伝わりやすいかを常に意識、配慮を行っているよう努めたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6	出来ていない。	どのような方法なら実施が可能なのか検討していきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	頻繁に訓練実施する様になっている。	マニュアルを周知するとともに訓練の実施を継続したい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	頻繁に訓練実施する様になっている。	BCPマニュアルを作成し具体性のある訓練を継続したい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7	0	職員間で情報を共有している。	保護者から状況を確認しながら継続したい。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	職員間で情報を共有している。	必要に応じて保護者を通して確認し対応を継続したい。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	見えるところに貼りだし出勤したら目を通すようにしている。	報告書をファイリングして情報共有を継続したい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	研修情報共有や研修内容報告などを行なっている。	定期的に研修を受け適切な対応を継続したい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	5	身体拘束の説明はしているが、対象児はいない。	身体拘束の説明はしているが、対象児はいない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。